

2024 年度卒業生アンケート調査結果報告

<調査概要>

□ 調査の方法

調査対象 2024 年度学部卒業生

調査時期 9 月卒業生：2024 年 9 月 14 日～2025 年 3 月 31 日回収分までを集計対象とした
3 月卒業生：2025 年 3 月 24 日～2025 年 3 月 31 日回収分までを集計対象とした

調査方法 原則、質問紙調査票を用いた学位記交付会場での集合調査

回収状況 回収率：95.0% 対象者数：6,384 人 有効回答数：6,067 件

□ グラフ参照時における共通注意事項

端数処理の関係上、合計と内訳が小数点第一以下で一致しないことがある。

1. 大学及び卒業学部・学科に対する満足度

図1は、「あなたは、法政大学および卒業学部・学科に対してどの程度満足していますか。」（“満足”～“不満”の4件法）の回答結果である。それぞれ、肯定的回答（“満足”あるいは“やや満足”と回答した者の割合。以下同様）が図の右側となるように示した。「法政大学」の満足度に関する肯定的回答は97.4%、「卒業学部・学科」の満足度に関する肯定的回答は96.4%となった。

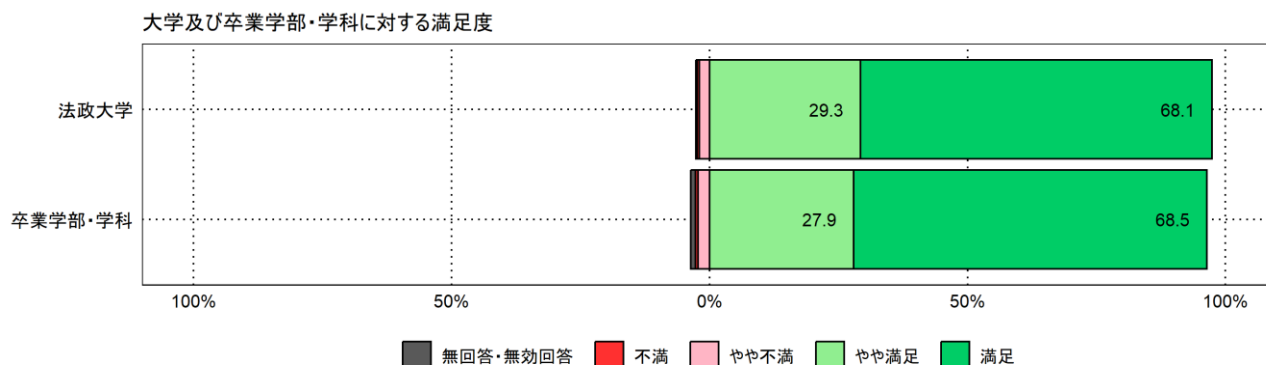


図1 大学及び卒業学部・学科に対する満足度

2. 教育内容満足度

図2は、「教育内容についてどの程度満足していますか。」（“満足”～“不満”の4件法）の回答結果である。それぞれ、肯定的回答（“満足”あるいは“やや満足”と回答した者の割合。以下同様）が図の右側となるように示した。最も肯定的回答が多かったのは「専門科目」の97.4%である。そして肯定的回答が多かった順に、「教養教育（基礎科目、視野形成科目など）」の96.7%、「カリキュラム全般（科目の種類・配置・配当学年など）」の95.4%、「専門演習（卒業研究、ゼミナールなど）」の95.1%、「語学科目（英語、その他の外国語）」の91.0%、「データサイエンス科目」の90.7%となった。

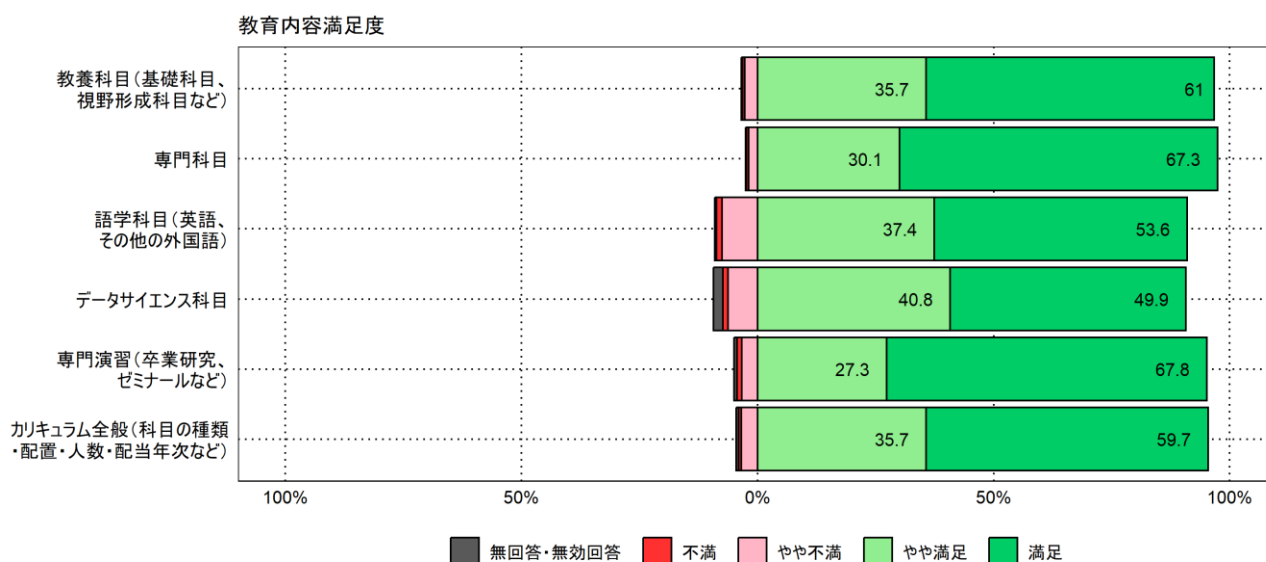


図2 教育内容満足度

3. 学位授与方針に関する習得度

表3は、法政大学が「法政 DP に対応する授業科目・学士力等」において公開する学位授与方針と修得する力を示している。図3.1は「あなたは、大学での授業や活動を通して、本学の学位授与方針(1)～(7)で示されている以下の能力や姿勢、態度がどの程度身についたと思いますか。」について、“身についた”～“身につけていない”までの4段階尺度及び“わからない”を含む5つの選択肢から回答された結果である。それぞれ、肯定的回答(“身についた”あるいは“ある程度身についた”と回答した者の割合。以下同様)が図の右側となるように示した。

最も肯定的回答が多かったものは、「客観的思考」の95.2%である。そして「幅広い知識」の94.4%や「俯瞰的視野形成」の94.1%も肯定的回答が多かった。一方、肯定的回答が相対的に多くなかったものは「グローバル志向」の81.3%であった。

表3 法政大学の学位授与方針と修得する力（法政 DP に対応する授業科目・学士力等より）

DP-I 人文科学、社会科学、自然科学にかかわる基礎となる幅広い知識をもって、複眼的、多面的に思考する能力。 (1) 幅広い知識、(2) 俯瞰的視野形成、(3) 客観的思考
DP-II 専攻する学問分野の知識・技能をもって、他の学問分野との関連を理解しながら、それらを応用する能力。 (4) 専門的学識、(5) 専門的技能
DP-III 言語・数理・情報リテラシーの能力と広い人間理解をもって、言語や文化の相違を超えて他者と意見交換する能力。 (6) 人間理解、(7) コミュニケーション能力、(8) 情報リテラシー
DP-IV 社会が抱える新たな課題を発見し、論理的分析に基づき想起した解決の方法を、他者に説明する能力。 (9) 問題分析・解決力、(10) 論理的思考
DP-V 主体的、自主的、能動的な態度をもち、自己の意見を形成し、発信しながら、他者と協調し、協働する姿勢。 (11) 主体的・自主的態度、(12) 発信力、(13) 協働性
DP-VI グローバルな視点とローカル社会の価値への深い認識のもと、多様性を尊重し、「持続可能な地球社会の構築」に寄与する姿勢と、自ら「学び続ける」態度。 (14) グローバル志向、(15) 社会貢献力
DP-VII 総合的に修得した知識・技能を多面的で創造的な視点と思考力をもって、積極的に社会貢献を果たし、市民社会で活躍する能力。 (16) 総合的な学修経験、(17) 課題解決力

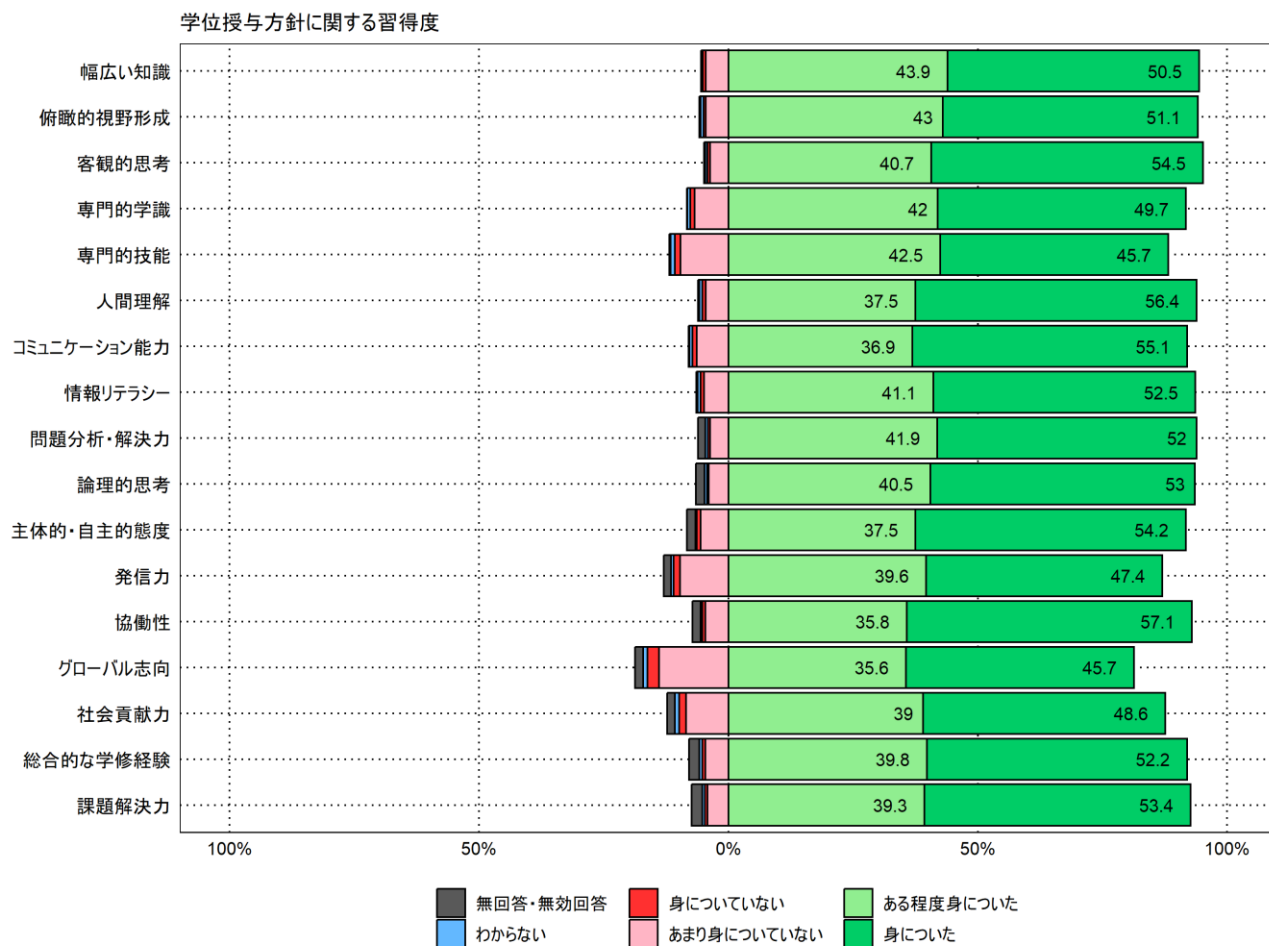


図 3.1 学位授与方針に関する習得度

ディプロマポリシー（DP）に関する習得率

図 3.2 は、ディプロマポリシー（DP）に関する習得率をレーダーチャートによって可視化したものである。DP 習得率は、次の手順によって算出した。まず、「学位授与方針に関する習得度」の回答について“身についた”は 100、“身についていない”は 0 として、“ある程度身についた”は 66.7、“あまり身についていない”は 33.3 と数値を与えることで習得率のように捉える。ただし、“わからない”の回答者は除外した。そして各項目の平均値を計算し、DP 習得率は同じ DP に属する項目の平均値として求めた。具体的に DP-I の習得率は「幅広い知識」、「俯瞰的視野形成」、「客観的思考」の平均値から算出している。

すべての DP で“ある程度身についた”の回答に相当する 67 の水準を超えていることが読みとれる。

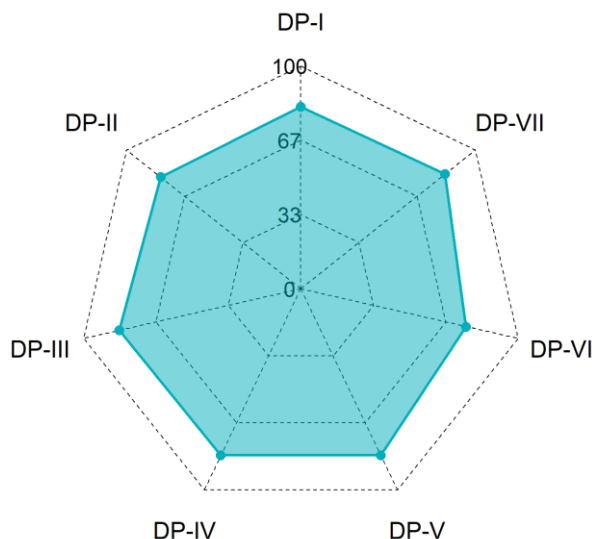


図 3.2 DP 習得率のレーダーチャート

2 年生アンケート調査との比較

学位授与方針に関する習得度は 2 年生アンケート調査においても聞いているため、2 年生と卒業生の DP 習得率を比較することが可能である。ただし 2024 年度 2 年生アンケート調査のデータを利用するため、2024 年度卒業生アンケート調査の回答者が 2 年生だった頃からの変化を表しているわけではないことに注意されたい。

図 3.3 は、2024 年の 2 年生と 2024 年の卒業生に関する DP 習得率をレーダーチャートによって可視化したものである。2 年生は黄色、卒業生は水色で示しており、2 年生よりも卒業生のレーダーチャートは大きいため、卒業生の方が DP 習得率が高いことが読みとれる。

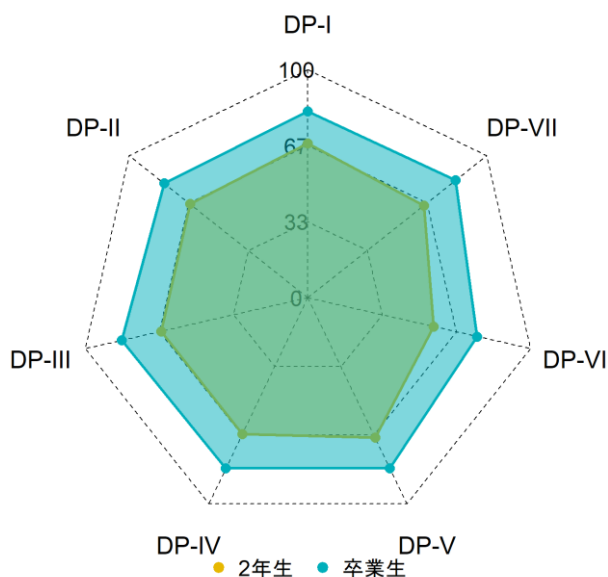


図 3.3 DP 習得率の比較（2 年生と卒業生）

4. 在学中の取り組み熱心度

図4は、「これまでの大学生活で次のような活動にどの程度熱心に取り組みましたか。」（“熱心に取り組んだ”～“熱心に取り組まなかった”の4段階尺度及び“経験なし”を含む5つの選択肢から1つを選択）と尋ねた質問の回答結果である。それぞれ肯定的回答（“熱心に取り組んだ”あるいは“ある程度熱心に取り組んだ”）と回答した者の割合。以下同様）が図の右側となるよう示した。

最も肯定的回答が多かったのは「専門分野の学習」の90.0%である。そして肯定的回答が8割を超えているのは「自分で文献や資料を調べる」の89.1%、「一般教養の学習」の87.6%、「自分の考えや意見を発表する」の85.8%、「学生同士で議論する」の82.9%となった。一方、肯定的回答が7割を超えていないものは「ボランティア活動」の46.3%、「資格試験・公務員試験の勉強」の57.2%、「インターンシップ」の62.5%、「部活・サークル活動」の63.1%、「データサイエンスの学習」の63.3%であった。

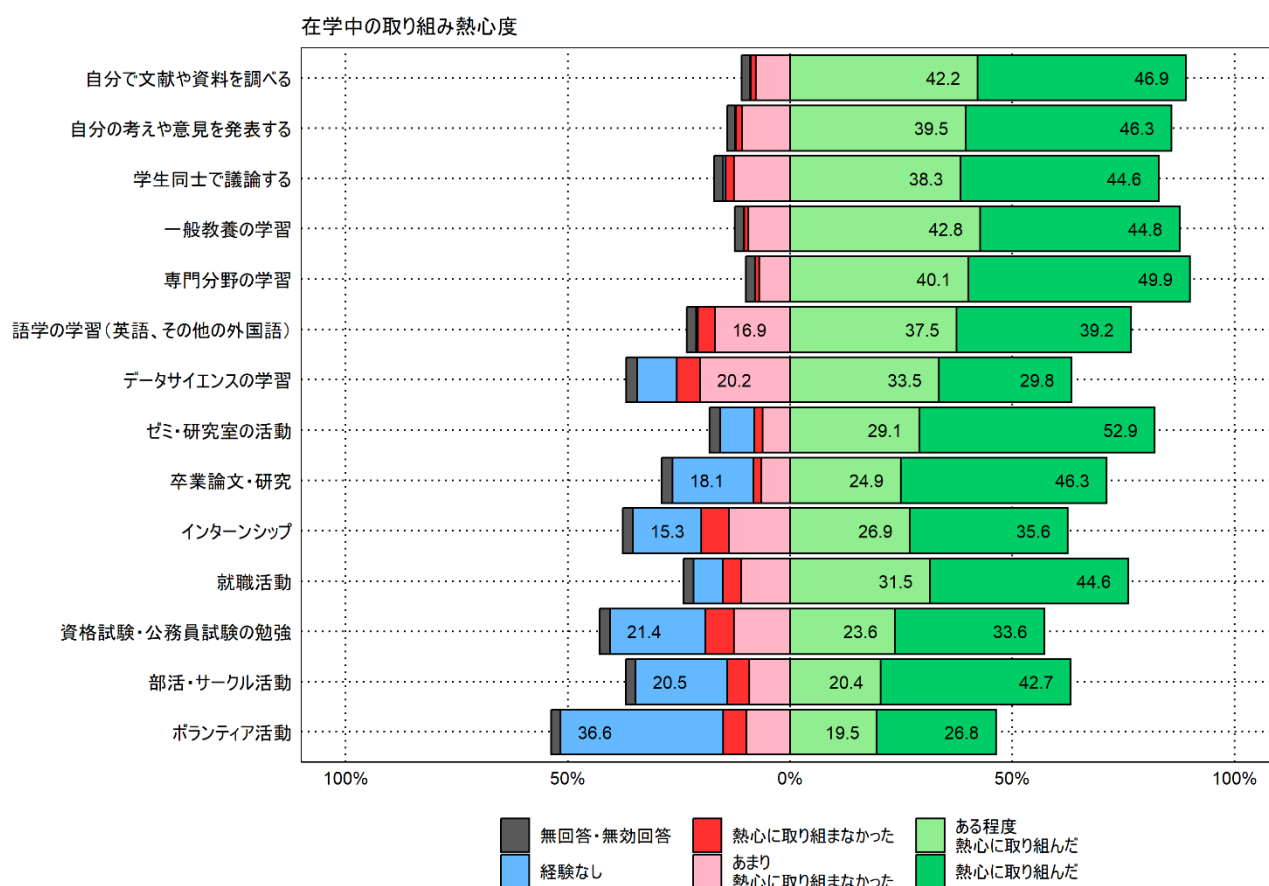


図4 在学中の取り組み熱心度